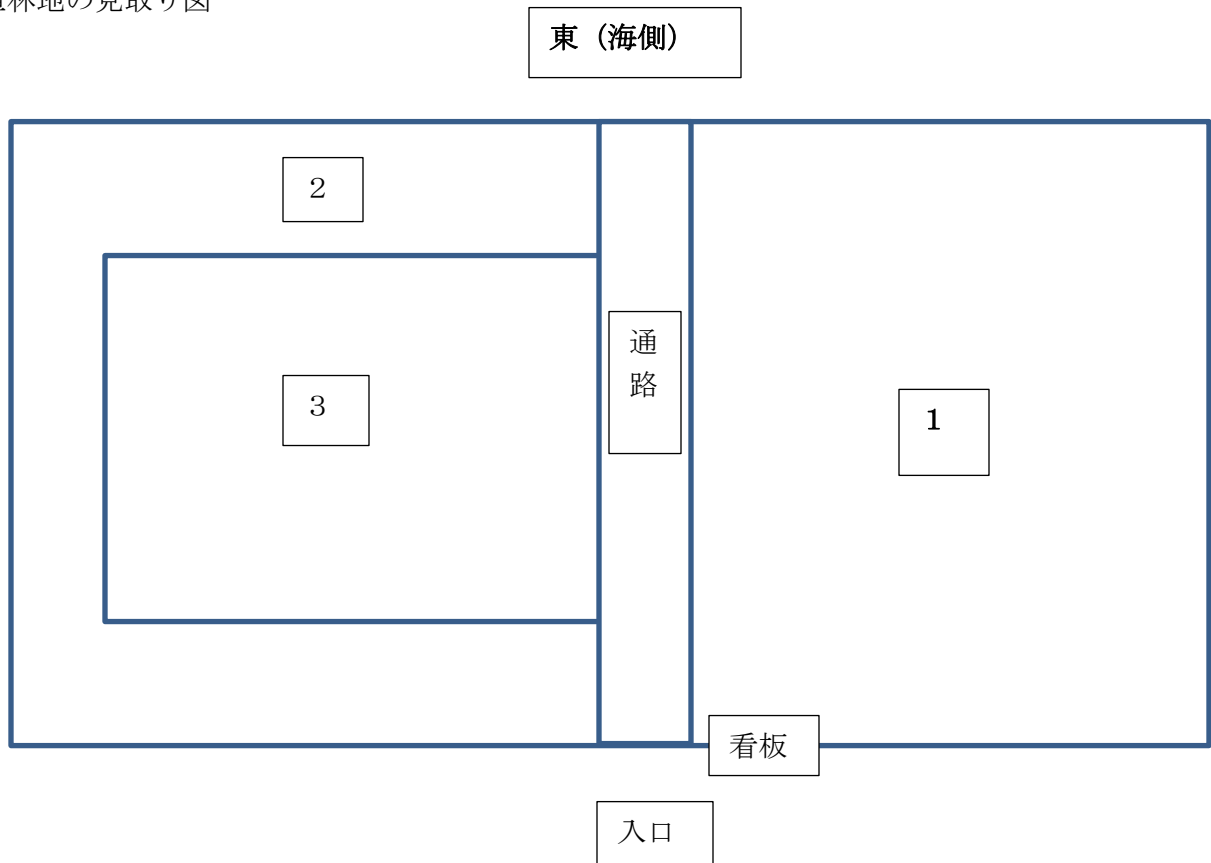


荒浜海岸：植林地の現況

仲村得喜秀

植林地の見取り図



植林地を成長の度合いから分けると、図の①②③ということになる。

① について

ここは全体として伸びの良い場所となり、樹種と本数は以下の通りである。

＊優良樹種・・・アベマキ（21本）、イヌシデ（3本）、ケヤキ（9本）、コナラ（1本）

＊次に準ずる樹種・・・アカシデ（5本）、サクラ類（7本）ミズキ（4本）、イタヤカエデ（3本）、クマノミズキ（1本）

② について

ここは①に次いで伸びのいい地域である。樹種と本数は以下の通り。

＊優良樹種・・・アベマキ（29本）、コナラ（11本）、ケヤキ（47本）

イヌシデ（4本）、サクラ類（2本）

＊次に準ずる樹種・・・イタヤカエデ（1本）、サクラ類（2本）、ミズキ（2本）

アカシデ（4本）、ウワミズザクラ（1本）、クマノミズキ（1本）

③ について

ここは①を除いた全体の中央部で、一番伸びの悪い場所である。いじけたケヤキがそのほとんどを占めている。他の樹種では枯死したものが、一番多く出た場所でもある。周辺部が成長すると同時に回復してくると思われるが、当分はこのまま見守るしかない。ここでの樹種と数の計測は行わなかった。

まとめ

樹木が伸びていくための要素は、風と光と土壌養分と言える。ここは海岸なので、塩分に対する耐性も入ってくると思われる。周辺部のクロマツ植の植林地は、急速に伸び始めている。マツ類は元々、乾燥、強風、やせ地といった粗悪環境に強い木で、逆に言えば、他の樹種が生きられない場所でも生きていける木ということである。

この植林地の中で①が一番伸びがいいのは誰が見ても明らかで、一部ではヤマハンノキの間伐を行った。ケヤキやアベマキの障害となっているからである。なぜここだけがこんなに良いのかは、残念ながらわからない。次に伸びが良いのは、①を除く外周部である。外周部は光の当たりが良いので、光合成量が多く、伸びた原因の一つになっていると思われる。東側（海側）の外周部には、パーク（木材）が積んであったので、これが有機物の養分となっていて、これも伸びの良い要因となっていると思う。外周部の伸びがまずまずということは、風があまり障害とはなっていないと言える。

③は伸びについては、ほとんど止まったままの空白地帯と言える。ここ数年は夏の降水量が極端に少なく、全体的に夏の葉枯れを引き起こしているが、3の空白地帯の原因の一つの要素としては考えられる。塩害に関しては、枯れた樹種を調べていないので良くわからない。全体的に見て、5割以上の広さで、まずまずの伸びが見られるので、いずれは③の地域も伸びてくれるものと思われる。

①と②では、今後必要に応じて、ヤマハンノキの間伐と枝打ち作業を行っていくことになる。